# 校友時報 甲子園だより NO7

8/18 大阪で取材
新聞部
土橋優美

## 第二戦（対尽誠学園）を終えて

### 大勢の報道陣

応援団は報道陣に囲まれて生徒を並ばせる暇もない。代わって先生方が一生懸命指示して並ばせている。

尽誠学園は帽子が無いせいか、小さな赤、青のメガホンも映えなかったようだ。しかし、チアガール（48人）はやはり目立ち、応援の花という感じだった。声は人数が多いわりにはよく聞こえなかった。

### 大阪で会った野球好きなおじさん

対佐賀東戦に向かう途中、大阪弁でよくしゃべるおじさんに出会った。野球好きなようで、しきりに「野球はねばりだ。あきらめないことだ。」と言い、何回もく、「勝利の女神は能代に輝く」と言ってくれた。

試合が終わって球場の外で会った見知らぬ人も「おめでとう、又がんばってください」と言ってくれた。

本当にうれしかった。

（大塚亜希子）

### 新聞部の取材

今回の甲子園大会の取材には、三年の大越孝生、板倉良子、渡部洋平、一年の大塚亜希子、小杉山糸子、土橋優美の六人が当たりました。本校の応援席である三塁側アルプススタンドだけでなく、三塁内野席、時には一塁側へも入りこんで、多角的な取材をすることが出来ました。

特に開会式の模様や、第一試合の沖縄尚学と桐蔭学園戦の応援の様子、そして本校の第一回戦佐賀東戦の模様は、現地で書いたものをすぐ電話ファックスで学校へ送り、それをすぐ印刷して配布するというような、新聞部の活動としては、本校は勿論、全国的に見ても珍しいと言える画期的な活動を経験することが出来ました。

ご協力いただいた先生方、生徒の皆さん、東急観光KKの方々にお礼申し上げます。

### 校歌に感激

二回戦はミスが目立ち、能代打線が爆発しなかったのが残念だった。でも、いろんなところで、いろんな人と交流できて、よい思い出になった。

テレビでしか見られなかった甲子園に連れてきてもらったことだけでも十分なのに、校歌まで歌わせてもらって感激です。とても楽しい数日でした。

（土橋優美）

### 尽誠の生徒と交流

バス駐車場から球場までの行き帰りに、尽誠学園の生徒と一緒になった。能代の生徒に「帽子とメガホンとりかえよう」としきりに声をかけてきた。

### 成田、福司、川原 …みんなよい思い出を有難う。

小学校、中学校と一緒に野球をやってきた友成田へ—君とバッテリーを組んでいたことを誇りに思うよ。

川原へ—お前のガッツポーズを見て涙が出たよ！

福司！みんな！三年間ごくろうさんでした。

よい思い出をありがとう。

（武内充英）

### 無念！完敗、でもスゴイ

いやー、完敗だったネー、手も足も出なかったもんネー、でも、がんばった！がんばった!! 甲子園に来ただけでも、スゴイ、スゴイ！

（能代からきた小学校の先生）

### 日大山形の生徒とも

バスの中からは、日大山形の応援生徒を見かけた。東北地区はあとは日大山形だけ。「絶対勝ってネー!!」と言いながら手を振る能代の生徒に、日大の生徒も笑いながら手を振った。

### 高速でトラックのおじちゃん

帰りのバスは高速で渋滞に巻き込まれてしまった。バスの隣にトラックが並んだとき、トラックのおじさんが手でXを作り「負けちゃったのか!?」とジェスチャーで聞いてきた。生徒も「負けちゃった!!」と笑いながらXを作って手を振った。

---

# 校友時報 甲子園だより No. 8

8/21
新聞部
小杉山糸子

甲子園大会をとおして、見聞きしたことや考えたことがいろいろあった。甲子園大会は選手だけでなく、能高生みんなにとってすばらしい経験だった。

### 甲子園の味

灼熱の太陽の下でかじった甲子園名物“カチ割り”のひんやりしたうまさは格別だった。

### 駅弁と大阪弁

行き帰りにみんなでおしゃべりしながら食べた駅弁。言うのが速くて何を言っているのか、よく分からなかったけどなんだか話せる人がうらやましく思えた大阪弁。二つの弁を一気に味わえてうれしかった。

### ああ、ここが甲子園

スタンドに立った瞬間「ここが甲子園か……」とボッーとしてしまったが、感慨にふけるひまもなく次の瞬間からは暑さとの戦いだった。予想ほど広くはなかったが、この中でプレーする選手ってすごい……と思った。

応援を見てみると他校はきれいにまとまってはいるが迫力に欠けているような気がした。その点私達は気迫で勝負。部員を励ます気持ちと声だけは負けないと思った。

（成田文子）

### 勝負を見届けよう

一回戦の帰り、二回戦どうしようかなと迷っていたらある先生が「選手の勝つ姿、負ける姿を最後まで見てあげることが応援ってもんだ。」と言って下さった。この言葉を聞いて私も勝ったときのうれしさや負けたときの悲しさを選手のみなさんと同じ甲子園で一緒に味わいたいと思って参加した。

（嶋田育子）

### 応援に行かねば

うわさ通りの暑さ、アルプススタンドの熱気、スタンドが観衆でうまったときのすごい迫力。こんな中でのあの素晴らしい試合ぶりを甲子園で、真近に見て感動した。そして次も応援して行かねば気がすまなかた。

応援は、チャンスの時は、みな一体になって良かったと思う。でもピンチの時も、もう少し選手を元気付けてやれるくらい声を出さなければいけないと思った。今度の時は、チアガールなどもっと華やかなものも必要だと思う。

（桜井博文）

### 周りの応援に感激

二回戦で偶然能代高の応援席にきた人達が私達と一緒になって一生懸命応援してくれた。「がんばれ能代」「ファイトファイト能代」とすごく大きな声で。ものすごい暑さの中、そして雨の中、こんなふうに大声を出して応援してくれている人達を見て私も励まされた。とってもうれしかった。

（嶋田育子）

### 甲子園を見守る人達

試合後に出会った町の人たちが「勝ったて？」と聞いてくれたり「頑張りやて」と声をかけてくれてうれしかった。右も左も分からない田舎者の私たちがあの大きな大阪駅でうろうろしていたら、親切にしてくれた人たちには、「町ぐるみで甲子園を見守っています。」という温かさが感じられた。

（佐藤佳恵）

甲子園大会の速報は今号で終わり、いずれ「校友時報」本紙で特集を組む予定です。生徒の皆さんから聞かせていただいたお話は、本紙でも紹介します。